

伊藤商会

「ガラバスタ」に新機種

鉄鋼向けハード型発売

耐火レンガ再利用に貢献

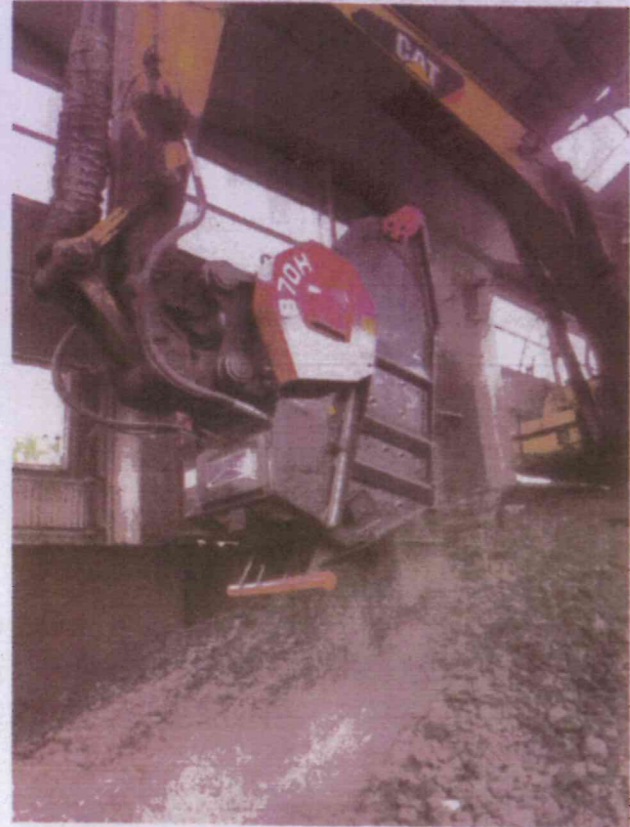
伊藤商会（本社＝東京都足立区、伊藤勝盛社長）はこのほど、バケットに本格的なジョークラッシュャが内蔵された次世代型バケットクラッシュャ「ガラバスタ」の新機種、鉄鋼業向けのハード型（Hシリーズ）の販売を開始した。耐火レンガの再生利用に取り組み王子製鉄からの要望をきっかけに、鉄鋼スラグの処理で蓄積したノウハウを生かして開発。鉄鋼生産の過程で発生する副産物は水砕スラグや製鋼スラグとしてリサイクルされているが、耐火レンガは鉄皮が混入して、破碎処理の際にかみ込みが発生して作業の妨げとなるため、再利用がうまく進んでいない状況があったが、こうした問題を解消できるようにしている。

油圧ショベル先端に取付けるアタッチメント型で、広い構内でも移動に手間がかからず効率的な作業が可能であり輸送コスト等を削減できる。建機1台でショベル、クラッシュャ、ローダの三役をこなすため、設備投資抑制にも貢献する。「ガラバスタ」は、ブ

ロックやコンクリートガラなどの破碎用として建物の解体現場等で広く利用されており、破碎する対象物によって破碎条件の設定を10分程度の短時間で容易に行うことができる。バケットの鋼材には、薄肉でありながら耐摩耗性に優れるスウェーデン製のハードドッ

クス耐摩耗鋼板「HARD DOX」を使用。同じく消耗や摩耗の激しい箇所には交換可能なサイドライナー等を採用、極力部品化し高い性能を維持できるなどメンテナンス性能も向上している。定価は0.7立方メートルで850万円（税別）。固定式の大型

万ト規模の耐火レンガが廃棄物として処理に出されているが、処理コストも高騰しており、リサイクルの観点からも製鉄所での耐火物再利用化は今後の課題となる。このハード型ガラバスタで再利用が進めばと思う」とする。現在、国内高炉メーカー向けも含め既に数十台が採用され、レンタルも開始している。



鉄鋼業向けのハード型「ガラバスタ」

設備の投資額が数千円規模となることに比べると大幅な初期投資削減につながる。伊藤社長は「現在、鉄鋼メーカーでは数十

同社はメインの鉄鋼選鋼事業や、鉄鋼・鋳造原料事業と共にこうした産業機械事業、を展開。60センチ厚の地金や鋼地金等の破碎が可能で「ゴッドインパクト」や、原発作業用が開発されたロボットで遠隔

操作により安全な炉内作業を実現する機械などを提案している。「自分たちの経験を元に、安全、環境、コストに配慮した商品を開発し、エンドユーザーに広げながら、鉄鋼業に貢献していきたい」と伊藤社長としている。